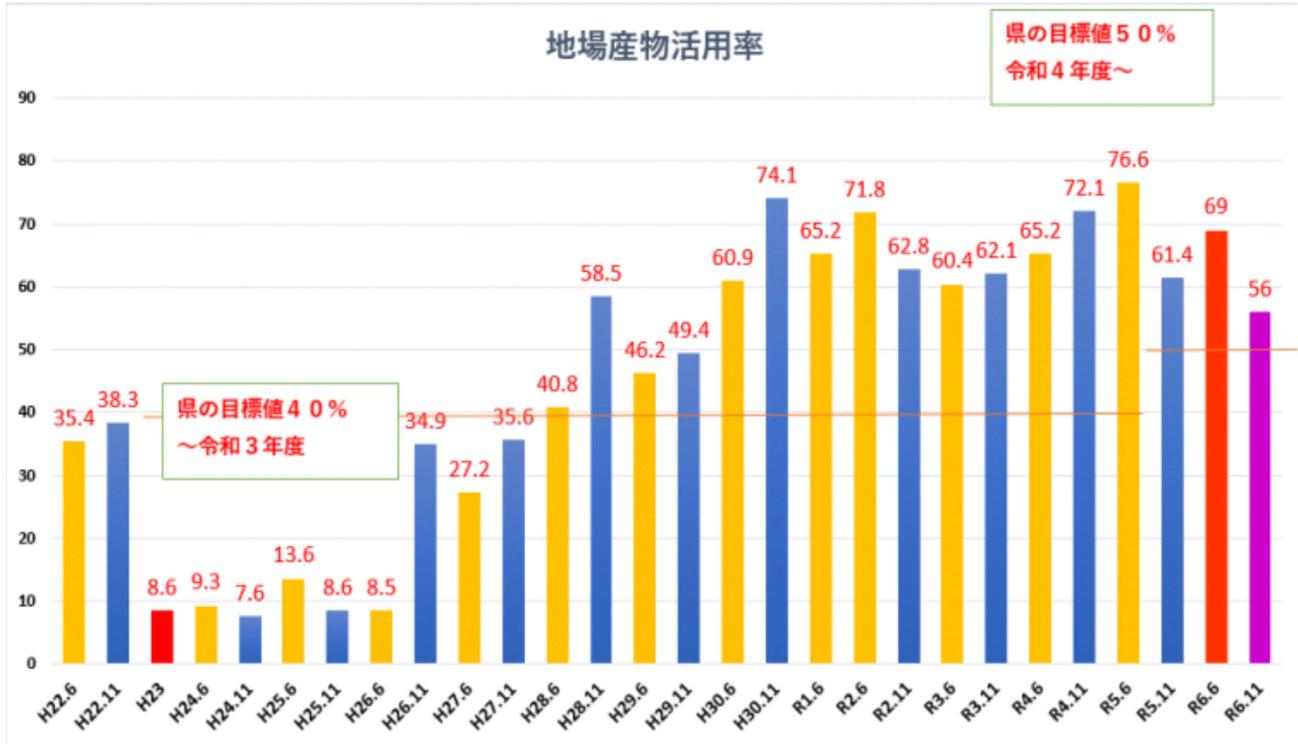


# 食育しんち

子どもたちの健やかな成長を願って

新地町教育委員会

## 1 「地場産物の活用状況調査(11月)」の結果より



福島県教育委員会が年に2回実施している「学校給食における地場産物の活用状況調査」で、新地町は1回目(6月)69.0%、2回目(11月)56.0%と、県の目標値50%を上回りました(県の目標値は、令和4年度に40%から50%に引き上げられています)。

地場産物は、天候や季節に左右されるため、安定した供給が難しい面があります。昨年度もそうでしたが、猛暑等による発育不良のため、予定していた地場産物が入荷できず、他の食材や県外品を使用した時もありました。また、エネルギーコスト等が上昇したことが影響し、地場産物の価格そのものが上昇し、使用を差し控えなければならない時もありました。

そのような状況の中でも、新地町から給食費に対する支援を頂くことで、地場産物の活用を意識した献立を作成し、地場産物活用の機会を増やすよう努めることができました。

2回目は1回目と比較して13%あまり低くなってしまいましたが、2年連続となった日本の「観測史上最も暑い夏」が、野菜の活用にブレーキを掛けてしまったなどの理由があります。保護者の皆さまもとっても、ご記憶あたらしいと存じますが、9月はトマトやレタスが平年価格の3倍になりました。年明け以降も天候不順や需要の高まりによって、キャベツや白菜の高騰(平年比3.3倍)は、家庭の食卓にも影響を及ぼしています。

|          |        |                 |         |       |
|----------|--------|-----------------|---------|-------|
| 新地町(6月)  | 県産品活用率 | 69.0%(県平均47.8%) | 新地町産品活用 | 38.5% |
| 新地町(11月) | 〃      | 56.0%(県平均53.5%) | 〃       | 26.5% |

## 2 令和6年度「食と生活のアンケート」調査結果より(児童生徒)

別添のグラフをご覧ください。主なものを抜粋してお知らせいたします。

なお、2月5日に開催される「新地町地域学校保健委員会」で改善点を見いだし、食育しんち第8号で、そのことについてお示しいたします。

**問1 家での食事や給食を「すききらい」しないで食べていますか。**

「はい」「どちらかといえばはい」が小学校で74%、中学校で77%でした。

**問2 「さわやかだ」を取り入れた食事はすきですか。**

「すき」「どちらかといえばすき」が小学校で91%、中学校で92%でした。昨年度は、小学校が90%、中学校が85%でしたので、中学校の伸びが見られます。本町食育推進事業テーマである新地の子どもは「さ・わ・や・か・だ」では、魚・野菜・減塩と、ある意味、子どもたちに食材への「負荷」を掛けています。本結果は、一連の取組が、子どもたち自身が健康面でプラスになることを自覚している証です。食べ物に興味・関心を持ち、自分で食するものを選択する力が身につけていることが伺えます。

**問4 地元の野菜を取り入れた食事はすきですか。**

「すき」「どちらかといえばすき」が小学校で88%、中学校で89%でした。昨年度とほぼ同数です。小学校では、栽培した食物を調理実習に用い、自分たちが育てた食べ物のおいしさを味わう機会を設けています。

**問5 地元の魚介類を取り入れた食事はすきですか。**

「すき」「どちらかといえばすき」が小学校で87%、中学校で83%でした。昨年度は小学校が81%でしたので、小学校の伸びが見られます。「きらい」はどちらも2%に留まり、全国平均の11%を大きく下回ります。この調査では、嫌いな魚の上位にサバ、サンマ、イワシ等鮮度が落ちやすく小骨が多い魚が挙げられました。家庭での食卓・学校給食においては、こうした苦手意識を感じさせないレシピの工夫が必要と考えられます。

**問6 朝食を毎日食べていますか。**

「ほとんど毎日」が小学校で88%、中学校で81%でした。昨年度は中学校が86%でしたので、中学校の落ち込みが見られます。なお、県が12月に実施した朝食摂取率調査では、本町の小学生は99%、中学生は95%でした。このことから、より実態を捉える調査が必要と言えます。(県平均 小学校97.5% 中学校95.3%)

**問7 家族と一緒に朝食を食べていますか。**

「ほとんど毎日」が小学校で70%、中学校で60%でした。

なお、県が実施した12月の調査では、朝・夕とも食べるが小学校で85%、中学校で68%でした。(県平均 小学校77.6% 中学校55.5%で県平均を上回る。)

**問14 どれくらいテレビを見たり、ゲームやスマホをしたりしていますか。**

小学校では、「1~2時間」と答えた児童が最も多く26%ですが、「4時間以上」と答えた児童が15%を超えます。昨年度より、全体的に接する時間が少し増えています。中学校では「2~3時間」と答えた生徒が最も多く34%、「4時間以上」は28%でした。昨年度より「4時間以上」は7%増加しています。

**問15 平日、何時頃ごろに寝ていますか。**

ゲーム時間が長ければ当然のように「睡眠時間」にしわ寄せがいきます。文部科学省の調査によれば、4時間以上している子どもは、0時までに就寝する割合が5割を切るとのこと。午前0時以降に就寝する小学生は「0%」と「昨年度の2%」より改善しましたが、中学生では「18%」と4%余り悪化しました。睡眠不足が続くと疲れが蓄積し、疲労回復がはかれません。身体に様々な影響が表出してきます。その悪循環に陥らないためにも、家庭での「ルールづくり」が求められます。